

ほんまぢ

6 月 園だより

令和 2年 6月 1日

渋谷区立本町幼稚園発行

<https://www.fureai-cloud.jp/hon-yo/>

人と人がつながること

園長 森山 未来



緊急事態宣言が解除されて、長い長い休園期間が、ようやく終わりました。例年の夏休み期間でも相当長く感じられるところ、今回は、その倍以上の時間、しかも自粛を強いられる窮屈な状況で過ごすこととなりました。各ご家庭におかれましては、お子さんとの過ごし方を様々にご苦慮なされたことと思います。休園期間中に、何度かお電話でお話しさせていただいた折、「エネルギーを発散させるのが難しくて力をもて余し気味」「毎日、家で過ごすことにも飽きてきた様子」などのお声をいただく一方で、「家で遊びを見付けて楽しんでいます」「心配なのであまり外には出掛けず、家で元気に過ごしています」「家でできるようになったこともあって休園期間中も成長しています」などのお声も聴かせていただきました。

〇〇していたら…〇〇していればという「たら・れば」の思考になると、△△もできたのに…□□もしていたかも…などの仮定の話しか浮かんでできませんが、〇〇したのだ…〇〇することができたのだという、現実を肯定的に受け止める発想からは、次の一步や未来が見えてきます。休園期間は、子供たちが過ごした現実です。この期間を通じて子供たちが経験したこと、子供たちなりに考えてきたこと（大人たちの様子を見ながら小さな頭でたくさん思ったり考えたりしていたことでしょうか…）、さらに成長したことを休園明けの生活にも、つなげていきたいです。保護者の皆様と一緒に、今後の子供たちの幼稚園生活について、更に、まだまだ先の見えない状況を見据えた子供たちの将来について、最善を探っていきたいと思っています。

幼稚園生活を全面的に再開させたいところですが、感染のリスクが全く0%になったわけではなく、しばらくは、新しい生活様式を取り入れながら、緩やかに園生活を始める必要があります。「まだまだ早い」という方、「もっと登園日を増やしてほしい」という方、保護者の皆様の考え方も様々である、と感じております。ご理解いただければ幸いです。

幼稚園が取り組む感染症対策については、『本町幼稚園の感染症対策』でお示したとおりですが、実は、この内容を検討する際、一番頭を悩ませたのは「接触」ということでした。「お友達に触れてはいけません」「近づかないで」と指導することは、感染防止の観点からは有効ですが、幼児が人への親しみを感じる心の教育にとっては、全くの逆効果です。どのように考えていくのか、大いに悩みました。そこで、少し視点を変えてみて、近づかないからこそ、先生と子供たち、そして子供同士も、相手をじっと見つめ、見守り、どんな子なのかな？どうしたいのかな？と思い巡らせる方法で、人に近づくことができるのではないかと考えました。相手への思いやりと寄り添い方によって、心がぐっと近づくような豊かな関わりをつくり出していくことが、今、幼稚園にできることです。「触れてはいけません」と禁止するのではなく、「少し離れて見てようね」と、距離をとることで分かることがあるかもしれません。想像の域を出ませんが、視線を送りながら佇んで、そっと話し掛ける子供の姿が見られるかもしれません。

“with コロナ（ウイルスと共に生きる）”と言われる新たな時代への試行錯誤が始まります。子供たちとの再会の喜びを力に変えて、一步でも前に歩みを進めたいと思います。